

大津市大腸がん検診受診にあたって（事前説明書）

大腸がんは、わが国においてがん死亡の上位に位置するがんです（女性1位、男性2位）。

便潜血検査による大腸がん検診は、死亡率減少効果があるとされています。大腸がんや大腸ポリープ等の病気を早期に発見し、早期に医療につなげるために実施しているため、検診の結果、「**陽性（要精密検査）**」となった場合は、必ず精密検査実施医療機関で**精密検査（裏面参照）**を受けてください。精密検査は保険診療となります。

※結果説明時に精密検査実施医療機関を紹介し、大腸がん検診実施機関が予約をとります。

◆検診方法： 便潜血検査（2日法）です。

2日分の便を採取し、血液が混ざっていないかを調べます。

※以下の方は検診を受けずに、医師に相談してください。

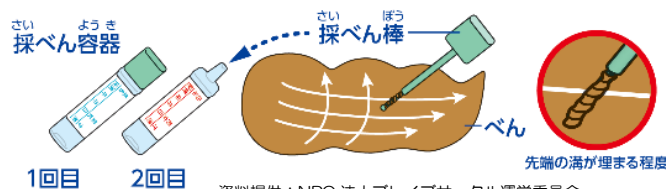
- ・現在、痔疾患などで出血している
- ・ポリープ、腸からの出血を伴う疾患などで治療中・経過観察中である
- ・数年以内に全大腸内視鏡検査を受けた

※女性で、生理中の方は、血液が混ざり陽性となる可能性が高くなりますので、採便しないでください。

《便潜血検査の注意事項》

★より正確な方法で検診を受けていただくために、以下のことにご注意ください。

1. 便の表面を、まんべんなくこするようにしてください。



資料提供：NPO 法人プレイブサークル運営委員会

2. 採取した便は冷蔵庫または保冷剤を入れた保冷箱等で保管し、2日分の便が採取できたら、すみやかに医療機関に提出してください。

3. 提出当日及び前日の2日分の採便が望ましいです。やむを得ず期間があく場合は、長くても採便間隔が7日以内のものを、1回目の採便から7日以内に2日分まとめて提出してください。

（考え方の例：1回目（日曜日）の採便日から7日目（土曜日）までに2回目を採便し、7日目（土曜日）までに2日分を提出⇒○、1回目（日曜日）の採便日から7日目（土曜日）までに2回目を採便し、8日目（日曜日）以降に2日分を提出⇒×

◆検診手数料： **800円**

※大津市国民健康保険加入者や市民税非課税世帯に属する方、70歳以上の方、65歳から69歳の後期高齢医療制度加入者、生活保護世帯に属する方等は検診手数料無料です。

※市民税非課税世帯に属する方及び生活保護世帯に属する方等は、検診票の「検診料減免確認承諾欄」に署名してください。

※大津市大腸がん検診の受診は1年度（4月1日～翌年3月31日まで）に1回です。便を提出した日（2日に分けて提出した場合は2日目の提出日）が検診日となりますのでご注意ください。

◆検診結果について

- 検診結果は、検体提出日から2週間程度でわかります。
- 検診結果は、検診を受けた医療機関から説明を受けましょう。
- 「陰性」の場合でも、大腸がんが100%ないということではありません。
また、がんがなくても「要精密検査」となることがあります。
- 便秘や下痢など気になる症状があれば、結果に関わらず医療機関を受診してください。
- 検診の結果が陰性でも、1年度に1回検診を受けましょう。

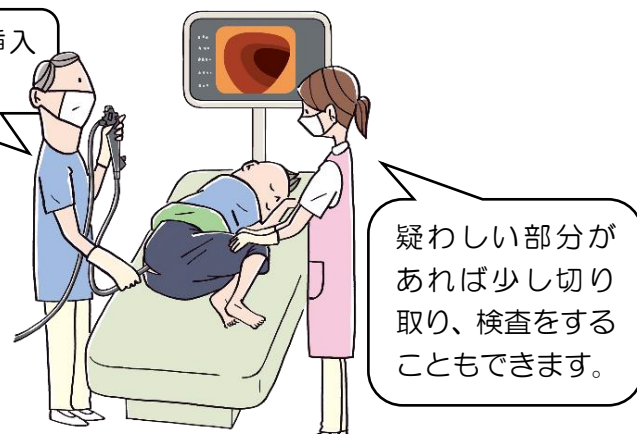
◆精密検査方法

精密検査方法の第一選択は全大腸内視鏡検査です。
全大腸内視鏡検査が困難な場合はS状結腸内視鏡と注腸エックス線検査の併用となります。
便潜血検査をもう一度受けることは不適切ですので、必ず精密検査を受けてください。
また、精密検査結果は市町村へ報告され、検診機関と共有します。

■全大腸内視鏡検査

肛門から柔らかく細いカメラを空気と一緒に挿入し、カメラを通じて大腸の全体を観察する検査です。
腸の長さにより多少時間は違いますが、通常約30分～1時間ほどかかります。

肛門から内視鏡を挿入して直接観察します。



資料提供：NPO 法人プレブサークル運営委員会

- 下剤を飲んで大腸の中を空っぽにして行います。
- 検査の前に腸の動きを止めるような注射を打つ場合があります。

～便潜血検査の再検査が不適切である理由～

便潜血検査では、大腸がんやポリープなどからの目に見えない微量な出血がないかを確認します。大腸がんやポリープは常に出血しているわけではないため、再検査をして陰性であったとしても大腸がんの心配がなくなるわけではありません。

そのため、便潜血検査の再検査は不適切とされていますので、要精密検査となった場合は必ず精密検査（全大腸内視鏡検査）を受けるようお願いします。

